

1. (もし選択できるとすれば)あなたは次のどれに投票しますか?

	賛成	反対	不明
独立	19	72	8
主権・連合	37.5	42.2	16.7
主権・連合(もしカナダ側が主権・連合を受け入れるとあなたが確信している場合)	50.9	31.3	15.1
主権・連合交渉を州政府にまかせる	53.9	29.7	14.2

北島 主権・連合に関する白書は、ケベック政府にとって交渉のきっかけを作るひとつの提案だと見ていいわけですね。セイウエル そう見ていいでしょうね。白書では政治的主権となっていますが、これは誰でも知っているように独立ということですね。ところが共通の関税、金融政策、中央銀行、輸送システム、その他もろもろ、あるいは共通の市民権といった経済連合については、考慮してもいいと言っているだけです。ですから、政治的独立を要求している以外、どうして守らなければならないという立場というのではないですよ。ケベックの極端なナショナリストの中には、そういう経済連合では、真の政治的独立はあり得ないと

2. ケベックの将来について次のどの道希望しますか。

現状	14.6
新生の連邦体制	38.7
ケベックの特別地位	11.2
主権・連合	19.5
独立	9.2

会的に大きな得をする可能性が強い。そうならば、レベック首相は州民に対して「これがわれわれにできた最上のものだ。皆さんはこれを承認するか、あるいはわれわれに持ち帰って再交渉して欲しいか」と問い直すことができますし、あるいは「主権・連合を交渉によってとりきめることができなかつた。したがって、主権についてだけの信託を求めたい」と訴えることもできます。可能性としては、この二つの選択が考えられますね。ケベックの大半の有権者は、主権・連合を交渉の基本的立場にすべきだと信じています。ところが、有権者の五四パーセントが主権・連合を基本的立場にすべきだとしながら、必ずしもそれに固執する必要はないと答えています。ですからすべて非常に不明瞭ですね。

主張する人もいるほどです。

北島 ケベック州政府が州民投票の結果、交渉をまかされた場合、連邦政府としてはどういう立場をとるでしょうか。

セイウエル もし州政府が大差で勝った場合は、連邦政府としては交渉に応じるほかにないでしょう。ただし、最初は「主権について話し合うつもりはない」というでしょうね。連邦政府としては、「主権について交渉してもよい」とはどうしても言いにくいと思います。しかし八割ぐらいの人々が賛成票を投じたとしたら、「ケベック住民の審判は下った。その結果を重視すべきだ」と主張する人もでてくるでしょう。これに対し、州民投票に関するレベック政権の動きは狡猾、不明瞭であり、賛成票は強硬な取引に賛成したということだ。したがって連邦政府としては、「審判は公平でなかった」というべき——と反論する人もいます。

クロード・ライアン氏は、すでに投票はペテンだといっています。州民投票は選挙民に選択を迫るのではなく、欲しいものは何でも手に入るかのように言っているだけだというわけですね。

北島 州民投票は国際的にどういう意味合いをもっているのでしょうか。

セイウエル これはもちろん投票の結果がどうなるかによるでしょう。新聞の見出しは、おそらく「ケベック、独立問題で投票」ということになるでしょう。ほかのところでもそうですが、日本でもよく知っているはずのジャーナリストさえ、州民投票は独立かどうかを問うもの

ではないということを理解していないですね。ある交渉の姿勢をとるにあたって、有権者の信託を得ようというだけのことですよ。

ただ、もし州民の審判が「賛成」となれば、国際的にカナダにとってマイナスでしょう。報道機関はカナダが分裂するというように書くでしょうし、ケベックへの投資や企業進出にもひびくでしょう。その点の影響は、ケベックの方が、ケベック以外の州より大きいと思いますね。ある意味で、ケベックはすでにあるていどの代償を払っています。独立への動きと、ケベックを実質的に単一言語州とする超ナショナリストイックな言語法案のせいで、すでに多くの企業がケベックから本社業務あるいはその一部を引揚げたのですから。

北島 一九七〇年の州選挙で、レベック氏のケベック党は二三パーセントの支持しか得られませんでした。同じ年、FLQ(ケベック解放戦線)が悲劇的な事件を起こしましたね。もし、今度何らかの妥協点を見つけ出さない場合、テロが再発する危険性はないでしょうか。

セイウエル 一九七〇年に起きたいわゆる「十月危機」は、レベック氏のようなケベック・ナショナリストが起こした危機ではなく、左翼の過激派——クロス氏を誘拐し、ラポルト氏を殺害した連中は、ケベック独立を考えていた人たちがずっとマルクス主義的解放を信じていた人たちに近かった——が起こしたものだという点では、レベック氏を含む大半

の人々が一致しています。そういう時代は過去のものです。現在のケベックは、当時よりはるかに静かですよ。労働組合は静かになったし、過激派もどうやら消えてしまったようです。あの十月の怒りの中に吸収されてしまったのでしよう。

可能性としては、レベック政権は州民投票に僅差で敗れるかもしれません。おそらく賛成票は四八パーセントぐらいどまりになるのではないのでしょうか。おそらく百万の英語系住民は全員反対票を投じるでしょうから、フランス系住民の五四パーセントが賛成だということになるでしょう。そうならば、「ほらこの通り。やはり少数派(注・ケベック在住の英語系住民)がわれわれを支配しているんだ」という人がでてきます。一部の政治家や超ナショナリストが、それを利用して民族の憎しみをかきたてようとするでしょう。レベック氏も、そういう可能性を認めており、そういうことにならないようにしたい、と述べています。しかし、レベック氏自身、ときおりこの問題を利用しています。例えば、彼は最近こう言っています。「問題は英国系にある。最高裁は英国系が過半数を占め、いつもわれわれに不利な決定を下す」ですから、レベック氏やほかの人は、フランス系住民の愛国感を高めるのに、州民投票における英国系住民の圧倒的な反対を利用できるわけですね。

北島 そういう事態にならないで欲しいですね。カナダ国民がこの状況を打開する道を見つかるよう願っております。